

# 日本安全保障貿易学会(JAIST)

## 第39回研究大会

### イスラエルから見た中東 —周辺戦略の変容に着目して

---

2025年3月16日  
防衛大学校  
江崎智絵  
chie10@nda.ac.jp

# はじめに

---

➤ 第2次トランプ政権による「アブラハム合意」拡大の意図

- 最優先候補国としてのサウジアラビア
- 脅威認識の融合：イラン（イスラエル）と中国（米国）

Cf. 2023年3月、中国によるサウジアラビア・イラン国交正常化合意の仲介

➤ 友敵関係：脅威認識と同盟のあり方

⇒ 目的：イスラエルの「周辺戦略（the periphery strategy）」とその変容から、中東に対する認識・秩序観を明らかにする。

# 1. 周辺戦略について

---

## ➤イスラエルのアイデンティティと自己イメージ

- 民族国家:ユダヤ人国家、シオニズム、ホロコースト ⇒ 孤立
- 民主国家:民主主義、親西欧 ⇒ 1988年、米・イ覚書:利益・価値の共有

## ➤1948年5月、独立戦争

- 被包囲意識
- 急進的なアラブ民族主義諸国への脅威認識

⇒ 脅威へのバランスingの必要性、パレスチナ問題の位置付け

## ➤周辺戦略の誕生

# 1. 周辺戦略について(続)

---

➤ 不変的概念である「中心」と「周辺」

- 中心: イスラエルにとっての脅威
- 周辺: 脅威を共有する主体(国家・エスニック集団)

⇒ 対象の可変性: 非アラブ諸国との関係強化

➤ 1950年代から1990年代にかけての同盟を規定

- トルコ: (～2010年)
- イラン: ～1979年
- エチオピア: ～1974年

## 2. 逆周辺戦略への転換

---

➤ エチオピアとイランの離脱 ⇒ 周辺戦略の行き詰まり

⇔ 周辺戦略への固執: トルコとの関係強化

- 脅威の存在: エジプト → イラン

- 1990年代から2000年初頭にかけての中東和平

⇒ アラブ諸国との関係改善、アラブ側の分断(ヨルダンとの平和条約締結)

➤ 9.11の影響

- 穏健なアラブ諸国との連携

- 二国家構想の形骸化: 2005年、ガザ地区からの一方的撤退

## 2. 逆周辺戦略への転換(続)

---

### ➤「アラブの春」

- 内政＞外交 ⇒ パレスチナ問題の重要性低下
- イランの脅威

### ➤ アラブ諸国との国交正常化

- 2020年9月、「アブラハム合意」の締結(12月、モロッコ)
- 2022年6月、地域協力の枠組みとしての「ネゲブ・フォーラム」の発足
  - ⇒ 米国の能力提示: 自らのパートナー国同士の関係強化
  - ⇒ イスラエルにとっても好ましい地域秩序の創出

### 3. ガザ戦争の影響

---

- 15カ月におよぶ戦争 ⇒ 逆周辺戦略: 停滞するも健在
  - (－) ハマースの動機としての「アラブハム合意」の拡大阻止
  - (－) パレスチナ問題の未解決がもたらすコスト
  - (＋) イスラエルとの国交正常化は維持
  - (＋) 2024年4月、イランの攻撃に対するイスラエル防空体制の存在
- 第2次トランプ政権の対応
  - (＋) ガザ戦争の停戦模索 ⇒ サウジアラビアへの熱視線
  - (－) ガザ再建イニシアチブへのアラブ諸国の反発

# おわりに

---

## ➤ ガザ戦争の教訓

- 日本) ズーム・イン: パレスチナ問題の解決の必要性
  - イスラエル) ズーム・アウト: 7 正面戦争 ⇒ 国家の生存に直結
- ⇒ 地域的措置 (サウジアラビアとの和平合意、対イラン同盟の構築、パレスチナ人との分離) の優先

## ➤ ヘッジングとしての逆周辺戦略

- イスラエルに有利な安全保障環境の創出: 勝者 (強者) イスラエル、敗者 (弱者) イラン
- 変わらぬ脆弱性 ⇒ 10.7 以前の「脆弱な安定」への回帰?